

## 健軍駐屯地「平和の輪」行動に参加して

山本みはぎ

2月23日、熊本の「ストップ！長射程ミサイル・県民の会」の主催で行われた健軍駐屯地での「平和の輪」行動に参加してきた。長射程ミサイルが配備される、健軍駐屯地を人の輪で取り囲み、配備反対の意思表示をしようというもので、地元熊本をはじめ、弾薬庫建設が進む大分や京都、オスプレイが配備された佐賀や複合防衛拠点の建設計画がある呉や広島、沖縄など全国各地から約1200人が参加した。駐屯地の近くの公園で開かれた集会が開かれ、県民の会の山下雅彦代表は、「国は頑なに住民説明会を拒んでいるが、すべての命にかかわる問題。憲法9条のもとで1000も先まで飛ばせるような長射程ミサイルを認めるわけにはいかない。」と訴え、最後に憲法前文を唱和して平和の輪に出発した。

健軍駐屯地の周辺には、右翼の街宣車20台あまりが怒声を上げて妨害行為をしたが、参加者は整然と健軍駐屯地を取り囲み配備反対の意思をアピールしていた。

健軍駐屯地は市街地の真ん中にあり周囲は商店街や学校、住宅に囲まれている。昨年11月にも商店街の住民が中心になり、1200名が参加する集会を開いている。長射程ミサイルの配備に対して住民の関心が高いことを示しているが、防衛省は度重なる住民の説明会開催の要望に全く応えていない。山下代表は、「もし仮に3月にミサイルが配備されても声を上げ続ける。高市政権のもとで厳しさは増して



いるが、ここで諦めるわけにはいかない。」と決意を述べました。

### フィールドワーク

翌24日は健軍駐屯地や熊本基地、高遊原分屯地、大矢野原演習場のフィールドワークに参加した。熊本駐屯地は自衛隊病院がある。高遊原分屯地は熊本空港内にある。熊本空港の滑走路は3kmもあり、日米等の共同軍事演習ではここが使われ、2025年度の米軍使用回数は88回と全国1になっている。

阿蘇の外輪山麓にある大矢野原演習場は、阿蘇の山焼きで黒く変色して



いた。演習場内の道路を通過してその広さを実感した。西部方面隊管内では日出生台に次ぐ広さがあるとい。日米共同訓練では、オスプレイの夜間飛行を伴う訓練や自衛隊の実弾射撃や手榴弾投擲訓練などが行われている。

### 健軍駐屯地への12式地対艦誘導弾能力向上型配備と富士駐屯地への配備

3月7日の夜、NHKが先行し健軍駐屯地への長射程ミサイルの発射機等の搬入の報道に対し、現地健軍駐屯地では、8日の夜には搬入に対しての抗議と監視の行動が行われた。市民約100人が詰めかける正門からはダミーの車両が入り、本物は警察車両に守られ別門から入るといふだまし討ちのようなやり方で搬入が強行された。防衛省は配備について事前に通知するとしていたにもかかわらず、熊本の県や市の行政には何の通知もしなかった。富士駐屯地の島しょ防衛用高速滑空弾も健軍基地もミサイル本体は31日に配備すると防衛省は発表した。

各地からの情報によると、健軍駐屯地への配備は、富士駐屯地の開発実験団の装備実験隊で実験と装備をされ、3月7日に富士駐屯地を出発し、横須賀港から海路で新門司港に到着、高速道路経由で9日未明に健軍駐屯地に搬入されたという。

三菱重工小牧北工場からの富士駐屯地への移送の時期は、かなり早い段階で行われていたことになる。不戦ネットは、10日に首相と防衛大臣あてに抗議要請書を提出した。

### 「富士にミサイルやめて！2.21 静岡集会」に参加して

高橋良平

2月21日(土)、静岡市内の駿府城公園にて「富士にミサイルやめて！2.21 静岡集会」が開催された。主催は「富士にミサイルやめて！の会」。

政府・防衛省は富士駐屯地（静岡県小山町）に3月末までに長射程ミサイルの配備を計画している。

この日は静岡県内各地からと東京、神奈川、愛知、岐阜から約450名(主催者発表)が参加した。会場では富士山のコスチュームを着た人や、富士山をあつらった横断幕など、富士山を強調するデコレーションが目立った。また集会の発言のなかでも「富士山を人殺しの山にするな!」など富士山を強調する発言が目立ち、静岡の人たちの富士山への誇りを感じた。

集会では、東富士演習場の地元からの発言者が「全然説明もなく同意もしていない」、市民からは「長射程ミサイルは憲法違反」「反撃による被害が心配」などの声があがった。

愛知からのアピールでは、三菱重工の労働組合が長射程ミサイル製造反対の要請書の受け取りを拒否したこと、ミサイル製造を止める必要があること、愛知で3月7日に反対集会を予定していることを訴えた。

集会自体はその後デモ行進を行う予定だったが、私は名古屋の栄で夕方から行うミサイル製造配備反対の街頭宣伝に参加するためデモ行進には参加しないで会場を後にした。

時事通信 2026年03月11日配信によると、防衛省は3月10日に地対地ミサイル「島しょ防衛用高速滑空弾」を31日に陸上自衛隊富士駐屯地(静岡県小山町)に配備する方針を固めたとのこと。また静岡新聞DIGITAL3月19日配信によると、防衛省は小山町に対して「配備する装備品を展開訓練など教育において利用する」と説明しているという。一方で町担当者は「有事の際の装備品の扱いについては説明を受けていない」としている。防衛省と陸自東富士演習場(御殿場市、裾野市、小山町)の地権者団体などは1967年の協議会において、「演習場またはその周辺にミサイルを持ち込まない」との事項を確認しているとのことだ。しかし、今後の展開しだいではミサイルが持ち込まれる可能性も十分あると考える。



長射程ミサイルの製造と配備は、日本の周辺諸国、とりわけ中国との軍拡を激化し緊張を高めるものであり、そもそも憲法違反に他ならない。製造にも配備にもNO!の声をあげつづけよう!

## ガザ・パレスチナ・中東情勢をかんがえる ～イスラエル・アメリカによる 虐殺を止めよう!～

高橋良平

パレスチナガザではイスラエルによるジェノサイドが継続中だ。ガザの保健省が3月18日に公表した犠牲者数は2025年10月11日の「停戦」以降で、虐殺された人々が677人、負傷者総数が1,813人、回収された遺体総数が756人となっている。2023年10月7日の攻撃開始以来の累計では72,253人が虐殺され、171,912人が負傷させられた。

また依然としてガザの50%以上がイエローラインとされ立ち入り禁止区域に指定されたまま。停戦合意の第2段階や平和評議会などは、アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃によって「延期」されたままであり、物資の搬入はイランへの攻撃開始の2月28日から3月3日まで、人の往来は3月19日まで認められなかった。

これ以外にも聖地エルサレムのアルアクサモスクもイラン攻撃後立ち入り禁止となり、ラマダン明け後、祝の日であるイードの際も封鎖されたままになる予定である。

ヨルダン川西岸地区でも虐殺は起きている。3月18日にはラマダンの礼拝後に自宅に帰ろうとした家族4人がイスラエル軍に虐殺された。2023年10月7日以降、ヨルダン川西岸地区でイスラエル軍と入植者は1045人のパレスチナ人を虐殺している(パレスチナ保健省)。入植地の拡大も深刻化している。イスラエルは2月8日にパレスチナ自治政府が行政権や警察権を持つ地域でもイスラエルの監督権限を強める決定をし、15日には入植地の土地をイスラエルの国有地として登記出来ることとした。このイスラエルの決定を受けて、日本を含む85カ国が2月17日に批判する声明を出した。しかしイスラエルの入植が止まる気配はない。

イスラエルはアメリカとともにイランを攻撃して以来、レバノンへの攻撃を強めている。イスラエルのレバノン攻撃はこれまでは、レバノン南部のシーア派地域やレバノンにあるシーア派地域(通称ダヒヤ地区)を限定攻撃していたが、ヒズボラからの反撃が強まると攻撃範囲を広め、キリスト教地域にも攻撃を行っている。3月19日時点で1000人以上が虐殺され、国内避難民は100

万人以上とされている(人口は約 590 万人とされている)。

イスラエルはレバノン政府に対して、ヒズボラの武装解除をしなければレバノンをガザのようになると恫喝している。レバノン政府自体はヒズボラの武装解除に前向きで、また今回ヒズボラがイスラエルに越境攻撃していることがレバノン国内で問題化しており、元々はヒズボラに友好的だったシーア派政党が今回はヒズボラを批判する一方、イスラエルがレバノン各地を攻撃していることに対する広範な市民の反発も巻き起こっている。

イランへのアメリカとイスラエルの攻撃についての詳細は省略するが、今、イスラエルがイランに対して行っていることは、中東全体の勢力図を大きく塗り替えることだと考える。

アメリカによるイラク占領後、中東地域はトルコ、イスラエル、イランという3つの大きな力が均衡した中において、湾岸地域、シリア、レバノン、それにエジプトが存在することで成立していたが(シリアはウクライナ戦争によるロシアの軍事支援縮小と2023年10月7日以降のヒズボラの軍事支援縮小を受けてアサド政権が崩壊)、イスラエルはイランの指導部を大量に殺害することで、イランの統治能力を大幅に低下させている。湾岸地域は今回アメリカに基地を提供していることもあり、イランからの攻撃に大きく晒されており、「戦後」イランをさらに警戒することは必至だが、これまで良好な関係を築いてきたアメリカが自分勝手にイランを攻撃したことにアメリカへの信用を失い、「戦後」は中国やロシアなどと多角的な安全保障関係を目指すとされている。

イスラエルの目的は中東地域を混沌とさせ、イスラエルに対抗出来る国力を持つ国家を中東地域から消すことである。次の目標はトルコと言われている。そしてイスラエルは誰かが止めるまで攻撃、虐殺、占領、入植を続けるだろう。

変化の兆しはある。アメリカでは2月27日、歴史上はじめて国内世論がイスラエルよりもパレスチナを支持した(41対36)。イラン攻撃も多数は反対だ。中東各地もトランプ・アメリカの「本性」を見ている。サウジアラビアはイスラエルとのアブラハム合意に対してさらに慎重な姿勢を強めている。UAEはイランからの攻撃によっ

て、これまでの国内投資と対外政策を見直さざるを得なくなるだろう(サウジアラビアとの対抗、親イスラエル政策など)。イスラエルとアメリカからの攻撃と混乱から平和と安全を守る中東地域の国際的な枠組みの形成が徐々に求められつつある。そして、そこにはかつてのアメリカやEUが主導する姿はなく、中国やロシアも関与する多角的な国際秩序が形成されると考える。

中東で現在起きていることは、一見するとイスラエルとアメリカの一方的な勝利のように見えるが、その深部と背景で起きていることは、じつはイスラエルとアメリカの孤立化であり、それは「西側」が力でねじ伏せてきた中東政治と国際政治の転換点となると考える。

ただ、その転換点のなかで、これ以上ガザの人々、パレスチナの人々、イランの人々、レバノンの人々、などがイスラエルとアメリカの犠牲者になることを許してはならない。また日本政府による直接の、間接の加担を許してはならない。まずは一刻も早く虐殺を止めるために声をあげよう！



### =ガザ緊急アクションなごや 今後の予定=

- 3月29日(日) 「土地の日」街頭宣伝  
ラシック西側 18時~19時
- 4月 3日(金) 伏見前街頭宣伝 12時~13時  
地下鉄伏見駅2番出口
- 4月12日(日) 集会&デモ  
場所:ひかりの広場  
集会 17時半~ デモ 18時~
- 4月17日(金) 伏見前街頭宣伝 12時~13時  
地下鉄伏見駅2番出口
- 4月26日(日) 街頭宣伝 ラシック西側  
18時~19時